

國際會議報告
INTERNATIONAL
MEETINGS

国際会議報告

国際住宅・都市計画連合（IFHP）ベルリン大会と エルサレム大会の会議報告

黒川 洸*

Takeshi KUROKAWA

1. IFHPについて

IFHPはInternational Federation for Housing and Planningの頭文字であり、公用語には英語、仏語、独語の三カ国語で併用され、英語では、FHUAT, IVWSRとなっている。この連合は1913年に設立され現在の事務局はオランダのハーグに設置されている。この連合は、「明日の田園都市」を提唱、実践したエベネザーハワード卿の協会にその源があり大都市を中心とした都市計画に関する実務家、学者等の集まりでありわが国の都市計画にも大きな影響を与えてきており、特に1924年アムステルダム会議における大都市問題への提言はわが国の多くの都市計画の本で都市計画上の重要な事項として取り挙げられている。

IFHPは、その名が示すように都市計画と住宅の2つの部門に大きく分かれている。わが国においては、住宅は主として民間部門によって需給とも行われているが、ヨーロッパの多くの都市では公営、あるいは準公営住宅(Public Housing)が大きなシェアを占めているので、住宅問題は公的セクターの重要な課題であり、かつ都市計画とも深く関わっている。この為大会では、2つのグループのテーマが常に取り上げられている。

IFHPは、非政府機関(NGO)であり国連との関係ではHABITATの下のNGOとして認知されており、他の国際機関との連絡が取られるようになっている。オランダ政府はこのNGO機関に対し、事務局がオランダ国内に置かれているものについては助成金を毎年出しており、多くの国際機関を国内に誘致、設置されることも奨励している。このような考えは、わが国の政府でも考えてもらいたいものである。

IFHPの組織は、法人会員と個人会員とから構成されており、法人会員傘下に属する人々の数が非常に多いのが特徴である。ヨーロッパの国の場合、国の組織、公共団体、都市計画・建築・住宅に関連する家協会、学会・協会・公社・業界団体等が法人会員となっている。大学

教官の場合個人で入っていたり、学会として法人加入しているケースがある。これから判るように、本連合は学者の集まりと言うより実務団体、実務家が多く、公的セクターの人の方が民間より多い。この為、大会の内容もいわゆる学術研究の発表というよりその時々の話題について招待論文の発表と質疑、あるいは発表とパネルディスカッションという形態のものを中心に、一般論文発表、ワークショップ、展示、現地視察が平行して行われることが多い。この大会は、International CongressとWorld Congressが1年おきに開催されておりこの両者には実質的な差がないので、毎年大規模な大会が開催されていることになる。各大会での公用語は、英独仏と、開催国の公用語の4カ国語となっている。わが国では、1967年に東京大会、1977年に兵庫大会が行われ、最近では1988年に千葉大会が、幕張メッセのオープニングのモーターショウにつづいて、2番目のものとしてアーバンインフラテクノロジーショウと併せて約1200名の参加者のもとで開催された。いずれのケースでも、開会式に皇太子殿下にご臨席を賜わっている(この年は横浜で世界交通研究学会(WCTR)が開催された)。

2. ベルリン大会 (International Congress Berlin)

ベルリン大会は、1991年10月14日～18日に東ベルリン側のスポーツ・国際会議センターで行われた。本大会のテーマは「新しい社会経済・政治環境における都市地域」であった。これは、この数年における東欧、ロシアにおける大変革とその後における都市、住宅問題を議論することが1つの課題となっていた。プログラムの概要は以下の通りである。

(1) 基調講演

- ・新しい環境におけるベルリンの将来

W. Nagel (ベルリン市住宅都市担当理事)

- ・大都市における自立型生活の質とは何か

D. Runnals (カナダ)

- ・中央および東ヨーロッパにおける住宅および都市計画の新しい政策の方向

A. Glapinski (ポーランド 都市計画および建設大臣)

*正会員 筑波大学 社会工学系教授
(〒305 つくば市天王台1-1-1)

(2) 第1主題 大都市における自立型生活の質を得るための都市および環境の管理

- ・社会・経済的側面の課題 U. Pfeifer (ドイツ)
- ・住宅か生活か？ M. Rivoire (フランス)
- ・責任をとれる都市とは？—都市エコシステムにおける「流れ」の計画からみて— S. Tjallingi (オランダ)
- ・都市計画と都市デザイン V. Music (ユーゴスラヴィア)

(3) 第2主題 ベルリン：急激な変化の中の大都市

- ・住宅：1つの都市の2つの部分（東西ベルリン）の統一 H. Simon (ドイツ)
- ・大ベルリン都市圏の交通—2つの都市の1つの大都市圏への統合— K. Lorenzen (ドイツ)
- ・ベルリンとその周辺 G. Wittwer (ドイツ)

(4) 第3主題 ベルリン：ケーススタディ

- ・(東ベルリンの)都心部の将来開発 H. Stimmann (ドイツ)
- ・衛星都市—都心周辺の開発のあり方— K. Bonnet (ドイツ)

(5) その他

- ・一般論文発表
- ・学生コンペ発表と展示
- ・各種専門家委員会の開催
- ・特別セッション
東西ヨーロッパの協調 住宅部門、都市計画および環境部門
- ・ワークショップ

上記のプログラムに対し、参加者は約500名と比較的小少なかったが、ドイツ以外の参加者は350名といつもの大会とあまり変わっておらず、むしろドイツの参加者が少なかった。これはテーマがベルリン、特に東ベルリンのケースに集中したため、外国人には興味深く、ドイツ、特に西ドイツの人からみるとあまり感心がなかったからかもしれない。今回の大会は比較的費用節約型の運営をしていたが、東ベルリンの郊外で行ったため、東西ベルリンの統一がそれほど簡単ではないとの印象は強烈に与えられた。日本からの参加は、湾岸戦争の影響もあり、8名と少なかった。

3. エルサレム大会（第41回 World Congress）

これは、1992年、9月13～18日にエルサレムのラマダルネッサンスホテルで開催された。

本大会のテーマは「急激な変化の中における国土、地域、都市の再構築」であった。前年度のベルリン大会では、東西ヨーロッパの変化が注目されていたが、その意味からみると、アラブ諸国に囲まれた国へ、毎年数十万人のユダヤ人難民や、帰国希望者を受け入れ、領土の拡張、都市の拡張を考えているので、それを諸外国へPRする、あるいはしたいとの意図もあって、イスラエルは非常に積極的な大会準備を行ってきていた。会議のプログラム概要は以下の通りである。

第1主題 国土・地域レベルにおける空間分布に関する構造変化

- ・国土レベルの人口分布の構造変化 A. Shachar (イスラエル)
- ・大都市圏レベルにおけるマスター・プランの構造変化 P. Merlin (フランス)

第2主題 住宅

- ・住民およびそのライフスタイルと住宅需要 S. Öberg (スウェーデン)

第3主題 地域および都市経済の再構築

- ・経済の再構築—スローガンとしてか現象としてか— W. Stöhr (オーストリア)
- ・地域のネットワークに向けて
—ヨーロッパの連合化— P. Nijkamp (オランダ)

第4主題 新技術と環境政策

- ・新技術と環境政策 J. Goddard (イギリス)
- ・自然環境と人口環境との相互作用 V. Torrance (イギリス)

上記のように、本大会の基調セッションのテーマ内容とも本学会の土木計画学の学術研究論文のイメージからみると、都市社会学的な論調のものが多く、実務的な色彩も強い。しかし、このような発表と討議の中で世界あるいはヨーロッパの国々が現在都市に対してどのような悩み・課題を抱えているかが良く判り、われわれの研究のシーズが内包されている。

来年度は、9月27日～10月20日 フィンランドのヘルシンキで「明日の都市」を主テーマとして行われる予定で、94年度はカナダ エドモントンで9月頃を予定して準備が進められている。

(1992.12.22受付)